

ゴイサギ等の増殖抑制対策は 3ヶ年計画で具体策を検討する



やまもと まきお
山本 牧夫 議員

問 地球温暖化の影響もあり、近年黒潮町でもゴイサギや川鵜が急激に増え、佐賀地域の伊与木川水神坂付近に営巣して100羽近くが生息している。

これらの水鳥は、水稻を踏み倒したり鳴き声による騒音や糞尿、悪臭の被害を発生し、小魚を大量に捕食するため、農産物や水産業に被害を与え、自然環境にも悪影響を及ぼしている。

鳥獣保護法との関連もあるが、追い払いや、樹木の伐倒等も含め、巣を作らせないための環境づくりと駆除対策が必要ではないかを問う。

答

今西海洋森林課長

伊与木川下流に生息するゴイサギ類については、コロニー（サギ山）を形成し集団での捕食活動を行っていることは確認している。5月に開催された黒潮町有害鳥獣被害防止対策協議会でも、ゴイ

サギ類や川鵜における当該地区農作物や水産物への被害状況が報告されており、今後は地域の関係者や鳥獣被害防止対策実施隊等の助言を得て、地域の実情に即した実効性のある対策を本年より3ヶ年計画で取り組みを進めていく。

内容としては、サギ類の追い払いや巣の管理、コロニー周辺の樹木、竹林の整備などが選択肢として考えられるので、県、国交省等関係機関との連携を図り、適切な鳥害被害対策に努めていく。



伊与木川水神坂のゴイサギ・川鵜コロニー（サギ山営巣地）